

「第3期足立区子ども・子育て支援事業計画」改定案に対する区民等の意見（全文）

いただいた意見のうち、全文掲載を希望しない方を除く意見については、全文を掲載しています。

個人を識別できたり、第三者の権利利益を損ねるおそれのある情報は、全部・一部を削除又は、概要のみを掲載しています。

No	いただいた意見
1	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 室内の遊具施設を作ってほしい。
2	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) (1) ファミリーサポートについて、地区の担当の人には繋いでもらいましたが、スケジュールが合わないに対応頂けないこともあります。需要に対する不足が発生しているところも少なからずあるはずです。個別のケースでアンケートを行ってより詳しい現況を把握してほしい。 (2) 学童は8時半～18時までなので、延長してほしい。 (3) 長期休み中の弁当持参などフルタイム勤務の家庭にとってはまだまだケアが足りないです。 (4) 発達支援サービスを利用していますが、全然事業者が足りていないです。送迎も必要と感じますが、対応している施設はいっぱい入所ができません。 (5) 一般にコメントを求めるのであれば1枚目で端的に何を変えて、何を継続するのかが把握できるような分かりやすい資料にすべき。フォームへも手順にハードルがあってアクセスしづらい。
3	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 父母の会の活動には関係なく、子育て仲間づくりの活動をしている園には補助金を出してほしい。 また、仲間づくり活動そのものに対する補助金も決まった活動の中から選ばなければ補助金がおりにないシステムではなく、もっと柔軟性を持たせて保護者が求めている活動に対して補助金をしっかり出してほしい。
4	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 家庭の収入が低いことで十分な教育を受けられないことがないよう、どの家庭でもレベルの高い教育を受けられる環境がほしい。

No	いただいた意見
5	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 区立保育園は雨漏り、床から蟻が出てきます。手洗いの場も石です。ヒビが入って黒かびがとれません。排水口もさびいてカビがとれません。改善してほしい。
6	30 年ほど足立区に暮らしていて、幼児 2 児を育てています。第一子より第二子の時の方が出産、子育ての経済的支援が手厚く、制度が充実したことを実感しました。ありがとうございます。 一方で、施策のうち 1-1 子どもの心身の健全な発達、2-4 安全・安心に子育てのできる生活環境の整備に関わる部分で改善してもらいたい点があります。 (1) 駅前に性風俗店舗があること 私が小学生だったもう何十年も前から綾瀬の駅前(西口)にはガールズバーなどが何店舗か立ち並び、夜は毎日のように客引きの人が立ち、朝は酔った大人が嘔吐したあとやゴミがあります。ここが通学路になっていて、この光景を見ないといけないのは子どもの成長にいいものとは思えません。地区の利用制限などできないもののでしょうか。 (2) 受動喫煙について 歩きタバコを取り締まっていた時期があったとおもいます。同じく小学生が歩く通学路には、特に冬場にタバコを吸いながら歩く人がよく見られます。継続的に対策がとれないのでしょうか。 (3) 公園での喫煙について 公園で喫煙する人がいて、小さな子どもを遊ばせられず、行き先を変更することがあります。マナーの向上を自治体の主導でできないのでしょうか。
7	(1) 足立区の公園は充実していると思う。雨の日でも未就学児が発散できるような空間があるとよい(有料も含めて)。 (2) 電動自転車の補助金があるとよい。 (3) シッターを気軽に利用できるマッチングサービスがあるとよい。(2 割の保護者が子どもを見てもらえる環境にないが、1～2 時間の短時間利用を必要としている保護者はそれより多いと思います) もし既にサービスがあるのなら、助成金の受け方を含めて利用講習をして欲しいです。 (4) 出産費の助成金 10 万円は助かりました。継続を希望します。 (5) 1 歳になった際の、子ども商品券も大いに助かりました。継続して欲しいです。 (6) 妊娠が分かった後の面談で商品券を 1 万円もらえますが、妊娠症状によって面談をする施設までいけない状態でしたので、オンライン面談も可としていただきたいと思います。

No	いただいた意見
8	子どもが足立区立保育園に2歳児と、5歳児として在園しています。 (1) 学童の定員を増やして3年生以降も入れて欲しい。 5歳児が来年一年生になるのですが、第一希望の学童の定員が50人でそのうち3年生が2人しかいなかった。3年生になっても場所を変えることなく同じ学童に入れるように定員を増やしてほしい。さらに、4年生、5年生でも希望をすれば学童に入れる仕組みにしてほしい。ランドセルで児童館等は、おやつも出ないし、一貫してみてもらえないイメージがあるので、学童でも可能になるようにしてほしい。(例え大きくて本人が希望しなかったとしても、入れる仕組みを整えてほしい。) (2) 同じ区立学童でも、方針が違うようで、一方ではテレビがある環境、一方ではテレビがないなど、設備が異なる点。また、同じ区立でも方針が違うので、ゆったりくつろげる学童、そうではない学童等…疑問を感じた。 (3) 保育園より学童の預かり時間が短くなるので、通勤に時間がかかる場合、定時までは働ける仕組みではないので困ってしまう。学童は8時半～18時(保育園は長いところでは朝7時～20時預かり)までなので、17時の定時まで仕事をしたらお迎えが間に合わない。追加料金でもいいので延長等仕組みがあると大変ありがたい。本当に小一の壁があると感じる。 (4) 2人目育休中、上の子が保育園に在園していると、下の子は1歳になる3月31日までしか育休が取れない仕組みになっている。(保育園申込案内所に載っている)公務員なので育休が3歳になる前日まで取れるのですが、上の子を同じ保育園に(当時4歳児)通わせてあげたかったため、1歳児で復帰した。下の子の育休を伸ばしたいがために、上の子の保育園を一旦退園させて一度幼稚園に行き、また次の年に元にいた保育園に戻ることに等しいリスクが多すぎる。せっかく公務員が率先して育休を伸ばしているのに、現実には上の子の保育園問題で育休の制限があり、矛盾していて残念であった。育休は途中から無給で構わないので、上の子が在園していても、3歳の前日まで取得してもいい仕組みにしてもらえると大変ありがたい。乳幼児期の数年はとても大きく、子どもたちの今後の人生を左右すると考えている。

No	いただいた意見
9	(1) 施策1-1 目標値を達成するための取り組みについて 図書館のアウトリーチ事業の具体的な取り組みとして、35ページに記載されている取り組みの一環として、図書館の貸し出しまたは返却ができる場所を増やしてほしい。特に、スーパーなどに設置できるとよいのではないかな。 例えば、歯ブラシ売り場で歯磨きに関する絵本を紹介したりすることもできれば、相乗効果が得られるのではないかな。 町田市や三鷹市が行っている移動図書館の取り組みも有効と考える。 (2) 施策1-1 目標値を達成するための取り組みについて 運動遊びに関する研修を行うことだけでは、目標値が参加人数の増減で示される可能性がある。研修内容を実際の子どもたちに還元するためには、研修で用いた遊具や教材を十分に購入できる予算措置を目標値にすることを求めます。 また、運動遊びを率先して取り組める人材を、区立保育園をはじめとする就学前施設に新たに配置する目標値を掲げることで、質の向上を図ることを求めます。保育士は運動の専門家ではありません。 (3) 施策1-2 目標値を達成するための取り組みについて 指導検査や巡回訪問の実施体制等を見直すと明記されているが、区立保育園をはじめとする就学前施設に新たに心理士らを配置することを目標値に求めます。常時または週に1回など定期的に訪問することができれば、より施設に寄り添う支援が行えると考えます。現状では数時間のフィードバックがされるだけであり、一人一人の十分な支援ができない。それは保育士や保護者にとっても「もう少し相談したかったのに」という思いを払拭できない。このような丁寧な取り組みが貴案、38ページの施策1-3や貴案46ページの施策2-3につながっていくと思う。発達支援児や要保護児童だけがクローズアップされるが、どんな子でもそれらのリスクがあることを踏まえてほしい。

No	いただいた意見
9	(4) 施策1－2 目標値を達成するための取り組みについて 「0歳から6歳までの子ども一人当たりの保育士数」の上昇を目標値にすることを求めます。 保育士の離職原因に関して、東京都保健福祉局「東京都保育士実態調査 令和元年5月」に基づくと、職場の人間関係・給料が安い・仕事量が多いが上位を占めている。つまり、保育士等への経済的支援補助金だけでは、十分な対策にならないことが明らかである。また、働きやすい職場環境づくりを進めるための研修支援では効果は得にくい。 例えば、保育士の現状は日々の休憩時間は10分程度であることが慣例化され、休憩未取得として給与が支払われることもない。そのことについては「私の時もそうだったから・・・」と泣き寝入り状態である。では、なぜ休憩時間が取れないのか。ひとえに人材不足だからである。保育士配置基準は満たしていても、保育士は疲れ知らずのロボットのように扱われ、心身を壊しながら日々子どもに接していることも多い。こんな保育士たちに保育される子どもたちは幸せだろうか？足立区が推奨している一人一人に寄り添った保育ができるだろうか？ また、保育の質に関する事項として、就学前施設が十分な玩具を購入できる予算措置を目標値にすることを求めます。足立区は「遊びを通して」子どもは学ぶと言っているが、遊ぶための玩具が不十分な現状がある。現状は、保育士たちが自宅残業で手作り玩具を作ったり、自費で絵本や玩具を購入したりすることが慣例化している。過去のように常時石ころをおままごとの材料に見立てたり、丸めた布団を人形に見立てたりする時代ではない。幼少期に良質で十分な玩具との出会いが少ない足立区の子どもたちに、就学前からの学びの基礎は培われるのか吟味してほしい。 (5) 施策1－3 目標値を達成するための取り組みについて 発達障がい児保育に関する研修内容を充実させるだけでなく、それを実践できるような十分な予算措置を目標値にしてほしい。発達障がい児を支援するには、日常生活用品から特別なものを準備したりする必要があり、なおかつ個々の特性に応じたものが求められる。研修内容を一人一人の子に還元できるような対策が求められる。

No	いただいた意見
	(6) 施策２－１ 目標値を達成するための取り組みについて 子育てサロンが３歳まで利用できる場になっていることが、利用者が減少する理由の１つだと考える。利用者数を増やすためには、子育てサロンの利用できる曜日や時間を増やせばよい。例えば、葛飾区では日曜日も開いている子育てサロンがある。 さらに、子育てサロンが子ども連れで飲食可能な場になればママ友・パパ友も集まりやすく、利用者が増えると考ええる。 足立区には子ども連れで飲食可能な場（子どもの遊び場が併設されている場所）が少ないと思うので、そのような場が増えることは貴案４８ページの施策２－４にもつながると考える。 子育てサロンのイベントも保活や学区の幼稚園・小学校の話、学童の話、小１の壁、おさがり交換会など、子育てしている人が生活していく中で本当に知りたい生活情報を企画すると利用者数が増える可能性がある。
10	保育園と区役所とのコミュニケーションは園長の報告次第という事が分かった。 こども同士のトラブルに対し親同士の面談や解決に向けて活動を求めているが対応が先延ばしにされていた。足立区にも相談をしたが先延ばしにしている園長に連絡を入れたのみで返答も無く数か月がたつ状況。 園長も課題については区役所には報告せず、大事なことは園長の報告次第でブラックボックスになる事が分かった。子供の過ごしやすい環境が属人的に決まるのはいささか問題であると感じる。７月に起きたトラブルがまだ解決出来ておらず、足立区、保育園はどのような考えでいるのか返答を求めたい。このような対応を取られると親は誰に相談をすればよいかが分からない。
11	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 空き家などを活用して、特に、子育て世帯向けの住宅をもっと整備してほしい。または、子育て世帯の住み替えに対して支援してほしい。

No	いただいた意見
12	①保育と教育の捉え方を改めた上での制度改革の必要性 保育園への子どもの入所を希望する場合、「保育に欠ける」状態でなくても受け入れる仕組みを設けるべきだという意見には、現代社会のニーズを反映した重要な視点があります。現在、日本の保育制度では、親が働いているなどの理由で子どもの保育が困難な「保育に欠ける」状態であることが入所条件となっています。しかし、こうした条件は保育園が提供する重要な教育的役割を見落としていると言えます。 保育園では単に子どもの生活を支える場ではなく、子どもの発達を促す教育的環境が提供されています。研究によれば、0歳から6歳の幼児期における脳の発達は著しく、この時期に受ける教育や刺激がその後の学びや社会性に大きな影響を与えることが示されています。たとえば、大学の研究では、幼少期に適切な刺激と安定した環境を提供することが、生涯にわたる健康や学習能力にプラスの影響を及ぼすことを明らかにしています。 保育園で行われる活動、たとえば遊びや日常生活を通じた体験は、ただの「保育」にとどまりません。子どもは遊びを通じて社会性や協調性を学び、食事や排泄などの日常的な習慣を身につけます。これらは、専門の保育士による適切な指導と観察のもとで行われ、子どもたちの心身の発達を支えています。したがって、「保育」と「教育」を分けて考える現行の制度は、保育園の役割を過小評価していると言わざるを得ません。 保育所を「教育的価値の高い学びの場」として再評価し、利用希望者全てに門戸を開く制度改革が必要です。そのためには、自治体や国が保育園の拡充や入所基準の緩和を進めると同時に、保育士の待遇改善や専門性の向上を図ることが不可欠です（幼稚園教諭に認められる業務時間内の準備作業や研修や会議等の位置づけを保育所の職員にも保障が必要です）。

No	いただいた意見
	②学童保育の位置づけと拡充の必要性 次に、学童保育についての課題を考えます。学童保育は主に共働きやひとり親家庭の小学生を対象に、放課後の居場所を提供する役割を果たしていますが、その位置づけは依然として限定的であり、利用希望者や子どもの成長を支える場の役割を十分に満たしているとは言えません。 たとえば、全国の学童保育施設では、定員を超過する「待機児童」が依然として多く存在し、足立区でも深刻な問題となっています。また、定員が少ないことから多くの学童保育の利用は小学校3年生または4年生までに制限されているケースが見られます。しかし、現代社会においては6年生までの子どもたちにも安心して過ごせる居場所が必要です。 学童保育の意義は、単に子どもを預かるだけではなく、子どもが大人や友達と交流し、社会性を育む場であることにあります。これは、各種調査でも指摘されており、放課後の質の高いプログラムが子どもの情緒的安定や学習意欲向上に寄与することが明らかにされています。 学童保育を公的に位置づけ、より広範囲な対象を受け入れられる仕組みを作るべきです。希望する6年生までの受け入れの拡充を可能とする為、施設の数やスタッフの拡充を図ることが求められます。また、地域社会やボランティアとの連携を強化することで、質の高い学童保育を提供できる体制を整えることも重要です。 ③社会全体で子どもを育てる仕組みへ 保育園や学童保育の制度改革を通じて、「子どもは社会全体で育てる」という理念を実現することが、これからの社会の課題です。家庭の状況や親の働き方にかかわらず、全ての子どもが適切な保育や学びを得られる環境を整えることは、社会の課題です。バランスの取れた年齢構成や世帯が共存できる地域社会として、足立区を発展させる為には、全世代が関係する課題と捉える必要があります。将来の社会を支える人材を育成するのみならず、現在の足立区を高齢化が進むだけの地域で無く、働く世代や子育て世代、子ども自身が住みよい地域にする為に、保育所や学童保育の重要性を認め、公の位置づけを高める事が必要です。

No	いただいた意見
13	防犯の補助金も始まり、今後治安の悪化が進むことの察しがついていることと思います。シニアボランティアさん達による安全な登下校支援をしていただいています。これからは学童保育へ力を入れるべきだと思います。共働きが増え小学生を持つ家庭は多くなっています。そこで心配なのは放課後の小学校から学童までの道のりです。少子化が進み、どこの小学校も空き教室があると思います。区内の全ての学童保育を校内に設置されてはいかがでしょうか？子供たちの安全。空いた教室の有効活用。古くなった学童教室を手放し経費削減。良いことばかりだと思います。 未来ある子供のことを真剣に考えてください。ちなみに近所の学童は 42 歳の私が小学生だった時から同じ建物です。こういうところに税金を使いませんか？
14	日曜祝日も預けられる施設を増やしてほしい。保育士を増やしてほしい。
15	①貴案 113 ページの施策について すべての対象児童が利用することを前提としていると明記しながら、表に 3 歳児以上の就学前児童が含まれていないのはおかしい。 乳児等通園支援事業に関しては、資料 101 ページにあるような子育てサロン西新井や子ども預かり事業を行う民間事業所を拡大する方が受け入れる側、利用する側双方に良いと考える。 なぜなら、利用する側としては突発的・土日祝・朝 7 時台から夜 20 時台まで預かってほしいなどの要望もあるはずだからである。既存の制度の枠組みを超えて行う新規事業だからこそ、柔軟な対応ができる受け入れ先を検討すべきである。 就学前施設に預けていない家庭が「預けたい！」と思う時は、今日明日といった突発であることが多い。 本事業の確保対策に認可保育所の一時預かり事業と特定地域型保育事業及び幼稚園の空き枠としているが、それらの施設はベビーホテルではない。カリキュラムに基づいて保育と教育を行う就学前施設である。単発の子どもと通常保育の子を同時に見るということは、子どもにとっても不都合なこともある。通常保育の子は先生を独占できないことも多い中、単発の子は先生を独占できる状況に「なんで？」と思うこともあると思う。 就学前施設で一時預かりをする余裕があるのなら、通常の保育の質を高めることが優先事項である。それは貴案 36 ページの施策 1－2 に通ずるものである。 乳児等通園支援事業が足立区として子どもにとって最善の策なのか吟味すべきである。

No	いただいた意見
16	足立区は子どもの学費など費用面でのケアやスポーツ教育での支援は充実していますが、芸術分野でいうと他の区に劣っていると思います。それは文化的な建造物や美術館、クラシック音楽を聴けるようなコンサートホールが少ないからです。 また、景観はどこも同じ様な場所が多く、都心に近いベットタウンとしては優秀だが街歩きをするにはあまりにも魅力がない。そういった背景から芸術的感性を磨きにくいかと思います。幼少期からそういった文化的なモノに触れられる環境づくりを考えていって欲しいです。
17	医療・保育・教育・介護・人と接する職業はよろこびもあり楽しくもあります。職員不足で日々の雑務に追われています。少子高齢化が進む中、未来を支える子どもたちのために職員を増やしてください。
18	(全文掲載を希望されなかったため概要を掲載しています) 区で行っている歯科健診で配布される【歯によいおやつ】パンフレットでは、「砂糖が少ないものを」と推奨しているのにも関わらず、区立保育園では菓子パンやケーキ、クッキー等のメニューが幾日か献立表にあります。いくら家庭で気をつけていても、保育園で提供されて味を覚えてしまっは、家庭での努力は水の泡です。健康的なおやつにしてほしい。
19	①近年援助を必要とする子どもが増えています。 国や都基準では対応が困難になっています。 健常児も障害のある子と共に成長できるように、区独自の職員配置も考えてください。 ②こども誰でも通園制度を令和8年度から実施するとしていますが、本当に子どもや保護者にとってふさわしい制度とは思えません。 毎日通園することによって保育士や環境に慣れ、安心して自分の居場所を築くことができます。保護者もそのような制度は望んでいません。十分な配慮が必要だと思います。慎重に関係者の意見を聞いてください。 ③学童保育を希望する児童が増えています。児童福祉法第6条に明記された学童保育を保障し、子どもの育ち、安心安全の学童保育ができるよう希望します。放課後子ども教室との一体化はやめてください。

No	いただいた意見
20	少子化の傾向は歯止めがかかりません。生活しにくい子育てしにくい環境にあるからだと思います。生活への経済的援助だけでなく子育てに希望のもてる政策が望まれます。通学に時間がかからない場所に学校があり地域で見守れることです。かつては児童・生徒数が多かったためもあり、学校が身近にありました。 ぎゅうぎゅう詰めの大規模校も多かったです。世界は1クラス20人前後。 学校をつぶさないでこれを実現できるときです。空き教室は様々な活動を可能にします。障害児学級にも配慮できるようになります。また学校は、地域の防災拠点でもあります。電気・水道トイレ等の設備が利用できます。川に囲まれた足立区は水害の甚大化も予測できます。 学校の統廃合はやってはいけません。空いた土地を金儲けに使ってはいけません。 さらに放課後の遊び場の確保です。公園・広場で身体を動かせ、図書館や住区センターでの居場所を創ってあげてほしいです。プール、楽器も使用できる防音施設、工作・絵・粘土など制作できるスペース、共働き家庭の子ども達や学習を援助できるスタディールーム、使える予算を区民の声を聴いて実現してください。税金は区民が納めてきました。
21	発達支援のサービスがある点は助かっているが、それが就学相談にうまく繋がっていないのが大変残念に感じる。就学相談の医師面談では、初めて会う医師が、データとその場で少し見ただけの子供の様子から決めつけたようにアドバイスしていたが、親からするとずれていると感じざるを得なかった。その場限りなのであれば子供自身に色々質問するくらいのことはして欲しかったと思うし、その医師でなかったとしても、初対面の人に何が分かるのだろうと思う。普段見ている保育士や、子供支援センターげんきの担当員に面談してもらった方がよほど納得できる。この点は改善すべき課題だと感じる。 また、人材不足が各所で叫ばれているので、ただサポート強化というだけでなく、もう少し人手を使わない計画が必要だと思う。例えば老人ホームと保育園が連携し、子供たちと高齢者が一緒に遊ぶことでお互いに刺激になり、保育士の負担が少なくなることが見込める。 家庭訪問は嫌がる家庭もいるので、あくまでも任意という姿勢は貫いて欲しい。

No	いただいた意見
22	①発達支援児がークラスに複数はめずらしくありません。対応できるだけの人員増と受け入れられる園児数は決めるべきです。 ②保育士の人員増で豊かな人格を持った幼児の育成にとりくんでほしい。忙しすぎて保育士に余裕がありません。 ③老朽化した保育施設を随時改修してください。 ④近所に子どもを遊ばせる公園が少ないです。樹木の多い日陰のある公園、子ども達の遊べる遊具がある公園を作って下さい。 ⑤夏の水遊びを保証してください。室内の設備設定を広げるなど工夫が出来ると思います。
23	①公立保育園は広い園庭があり、おいしい給食もあって子どもたちには過ごしやすい環境だと思います。 乳児が多人数で同じ保育室で過ごすのではなく、小さなクラス集団にして欲しいです。 安全を守るためにも、保育士の人数を増やしてください。 ②災害時の障害のある方々の避難先として、公立保育園だと利用しやすいのではないのでしょうか。 ③夏は暑すぎてプールに入れない日が多いです。 今後どんどん暑くなってくると思います。 暑さ対策としてミストや噴水で遊べるように保育園に設置し、園舎の断熱、遮熱などの園舎改修をしてください。
24	①こども誰でも通園制度について 足立区は今のところ、公立保育園の実施は考えていないとの事ですが、令和8年度からはどうなるのでしょうか？ 誰でも通園という事であるならば、全世帯の子どもを入所させるのが一番良いのではないのでしょうか？ 親にとっては、都合の良い制度かもしれませんが、子どもにとっては親からはなされる悲しみ、切なさしかありません。 全く知らない所に預けられなければならない気持ちを全く理解してもらえていませんよね。 子どもは荷物じゃないと言われていますが、全くその通りです。小さい子がいたら足でまといになるから預けようという気持ちを保育者に持たせるような制度は絶対に反対です。 ②公立の民営化がどんどん進んでいますが、保護者のニーズ調査はした事があるのでしょうか？安心して預けられる公立保育園を現在の30園を残すことは足立区の名誉になると思うのですが。

No	いただいた意見
25	子育て支援策を講じ、少子化対策をすすめていくことは必要だと感じるが、こども誰でも通園制度は、子どもの発達の観点からみても人見知りの時期に保護者から離れて過すことが良いとは考えられない。受け入れの環境を整えることや、同じ人が受け入れるなど、すこしでも安心できることを整えることがなくてはいけないと思う。 子どもは荷物とは違うので、預けられることでの心の育ちのデメリットなども考慮するべきだと思う。 保育現場の負担を重くしないようにすることもお願いしたい。
26	①公立保育園 30 園、これ以上減らさないでください。 ②発達支援児が増えています。公立の役割は大きいと思います。1 園にたくさん入所させるのではなく、健常児との関わりの中では、2～3 名、そして職員の数も必要です。ゆったり保育できるよう望みます。 ③職員は休憩をとる時間もないほど、事務量が増えています。園児から離れて仕事ができるよう、職員の加配をしてください。
27	公立保育園を減らさないで下さい。父母が子供をもち働きつづけるため、住居に近い所に保育園があるのが良いと思います。半分に減らしてしまえば登園が困難になり、父母の負担が増大します。 保育園を減らすのではなく、クラス人数を減らし充実した内容の保育になるようにして下さい。
28	①発達支援児が増えています。対応する職員の人員配置を拡充してください。 ②老朽化した保育施設を随時改修してください。 ③令和 7 年新規事業の子育て家庭訪問事業の子育て相談やよろずごとの傾聴、絵本の配布と読み語りとあるが、家の中に人が入ってほしくない人もいる。 特に聞いてほしいこともない人もいる。対象者に応じて対応できるような事業にしてください。
29	①職員の配置や、園庭・プールがあるなどの環境の良い公立保育園を減らさないで下さい。子どもの成長にとって人的配置、環境は大切なものです。民間委託を公立保育園にかえて欲しい。 ②保育園施設は老朽化しています。災害にも、安心して園生活でき、子どもの命を守るために、早目の改修や建てかえて下さい。 ③最近、公立保育園児のお散歩の姿が見られません。自然にかかわることで発見する楽しみ、体力作り、感性が豊かになります。 ④保育士の職員不足にならないよう、きちんとした生活保障の賃金にして下さい。

No	いただいた意見
30	①老朽化した保育施設を計画的に改修してください。近年の酷暑の夏、園庭で遊べずにいます。日よけ対策、プール、ミスト、木陰を作るなど、過ごしやすい環境も整えてほしいです。 ②発達支援児保育の充実をお願いします。専門的な知識をもった職員が丁寧に寄り添うことが大事だと思っています。人員増をお願いします。 ③保育士は休憩をとる時間をもてない現状です。区独自の職員の加配をしてください。
31	①現状の保育士配置では、人員が足りません。保育士の職員不足を解消するための対策を行って下さい。 ②老朽化した保育施設を随時改修して下さい。 ③学童の待機者が増えています。希望する児童が全員入れる様にして下さい。 ④学童と放課後子ども教室の一体化は止めてください。児童福祉法第6条に明記された学童保育を保障し、子どもの育ち、安心安全の学童保育が出来るようにして下さい。 ⑤休憩をとる時間もない現状です。区独自の職員の加配をして下さい。
32	私は現在、公立保育園の会計年度職員として保育補助の仕事に従事しています。ここ近年、発達支援児の入園が多くなっているように思えます。 以前は1園に入る支援児はある程度人数が決められていましたが、「障がい者差別解消法」が制定されてから、受け入れ人数の制限がなくなり、多くの支援児が入園するようになりました。肢体不自由を含め重い支援児が多くなっているように思えます。他、認定はされていないが支援の必要なお子さんも多くなっています。 そんな中で、クラス運営に頭を悩ませながら保育をしているのが公立保育園の現状に思えます。 支援児も含めた子どもたち一人一人に十分に手が行き届くようにするには、支援児の受け入れ人数を決めることや、支援児には十分な職員配置（認定児には1対1）、会計年度職員だけでなく正規職員の配置も含めぜひ御検討下さい。
33	①保育園の子どもたちは、近隣の公園にお散歩に出かけることが多いのですが、小さな子どもが安心して使えるトイレが設置されている公園が少ないようです。公園改修の際には検討していただけると嬉しいです。 ②保育士確保・定着対策ですが、借上げ住宅支援制度の利用者がかなり増えてきました。対象者は経済的に安心して働けるようになっていると思います。また永年勤続表彰も区として行っているのは励みになると思います。ただ、保育園は保育士だけでなく、様々な職種の職員が連携して働くことで成り立っていますので、保育士に限らない補助制度や表彰を取り入れていただけると嬉しいです。 ③職員の配置基準についても、他の市区町村に先立って、さらなる手厚い配置を望みます。

No	いただいた意見
34	①今後、小・中学校を統廃合するということですが、マンモス校にならないでしょうか。マンモス校になると、全校の取り組みがなかなかできなくなります。体育館や校庭に移動する時間がとられ、実質的な内容を削ることになります。校庭や体育館での授業・遊びが窮屈になって危ないです。 例えば校庭の使い方→自由に遊べなくなる？学年別とか？ ②学年１クラスというのも問題はあると思いますが、多くても３クラスまでがいいです。また、１クラスの人数も３０人以下に。 ③通学する子どもたちに遠距離通学の不安を強いたり、通学路の安全性は確保できるかなどの不安はないでしょうか。 今、全国的に先生が足りないといひます。合格しても辞退したり諸事情で途中退職したりする教員も多いようです。長時間労働で帰宅が遅いので、病気になる前に、やめさせたいという家族の悲痛な声すらあるようです。 ④早くこの状況を変えていかないと子どもにも悪影響が出ます。担任がいらない！ いろいろな先生が代わり代わりにくる。または学年合同の授業が多くなる。 従って子どもたちが落ち着かない。不安になる・・・親御さんの心配も募る。 ⑤まずは根本的な問題は、国の政策ですが、給料を上げること。保育士も看護師も介護士も・・・ケア労働者全般。そして公務員も。非正規は本人が希望すれば正規職員に。 ⑥保育園も多種類あるのでその違いは判りませんが、園によって環境や保育内容の質の違いがありすぎないようにしてほしいです。高いほうへあげていく。将来、公立保育園 30 園を 16 園にしていく。とも聞きます。民間会社が運営することはありませんか？（スマホで見ただけなのでよく判りません）園庭が全くない。狭いことで近隣の公園に出かける園も結構あります。近くならまだいいですが、移動距離が遠いと先生方の神経のつかい方も大変です。公設民営化の場合は環境をしっかりと考慮してほしいです。

No	いただいた意見
	⑦私立保育園での平均勤続年数が５年未満の割合が８割。これには、驚きです。せっかく資格をとり慣れてきてベテランになろうというのに、やめてしまうのはとても残念としか言いようがありません。 本人も子どもたちも保護者もかわいそうです。 なぜこんなに離職率が高いのか、その原因の把握は区としてできているのでしょうか。 保育士が定着し、安心して働くことができる職場環境を整えることが重要。 まさにこの通りだと思います。すぐに対処してあげてほしいです。 私立への補助についてはわかりません。ＵＰしてあげて下さい。 ⑧児童虐待発生数が増えているのも気になります。加えて、不登校児童・生徒も増えているのでは。 関係機関で連絡を取り合って対処してほしいです。それにしても、こういう部署の職員は多忙ですね。 人を増やしてほしいです。しかも正規の職員を。 ⑨子どもにも、保護者にも、お年寄りなど、みんなにとって、安心安全でくつろげる公園や図書館、その他の施設をつくってほしい。つまり行きたくなる施設です。 こういうところで、楽しんでいる親子たちを見ていると「平和だなあ」と感じます。 足立区に住んで良かった！足立区で働いて良かった！お産、子育てもしやすい！学校も楽しい、行きたくなる。 人を大切にしている！自然を大切にしている！誇れる足立区に大人がしていきたいと思います。